

鉄道構造物等設計標準・同解説（耐震設計）（H24年9月）、（コンクリート構造物）（H16年4月）、（鋼・合成構造物）（H21年7月）、（鋼とコンクリートの複合構造物）（H28年1月）、（基礎構造物）（H24年1月）、（土留め構造物）（H24年1月）に準拠

# Aspect-SE

## 任意スペクトルによる応答塑性率算定ツール(Ver.1.1)

### 【特徴・用途】

本プログラムは JRSNAP のオプションツールとして、ユーザーが設計標準の応答スペクトルを利用せず、動的解析により独自に算出した所要降伏震度スペクトルを使用する際に必要なツールです。任意の等価固有周期と所要降伏震度を入力すれば、応答塑性率を算出することができます。詳細は「JRSNAP とオプションの更新一覧」をご覧ください。

**データ入力・編集**

	応答塑性率 $\mu=1$		応答塑性率 $\mu=2$		応答塑性率 $\mu=3$		応答塑性率 $\mu=4$		応答塑性率 $\mu=5$		応答塑性率 $\mu=6$	
	T	k	T	k	T	k	T	k	T	k	T	k
1	0.100	1.380	0.100	0.900	0.100	0.770	0.100	0.660	0.100	0.590	0.100	0.540
2	0.200	1.380	0.200	0.900	0.200	0.770	0.200	0.660	0.200	0.590	0.200	0.540
3	0.340	1.960	0.360	1.160	0.380	0.900	0.380	0.770	0.390	0.670	0.390	0.610
4	0.950	1.470	0.900	0.890	0.840	0.720	0.780	0.620	0.730	0.540	0.700	0.490
5	5.500	0.200	3.350	0.200	2.600	0.200	2.100	0.200	1.750	0.200	1.530	0.200

**JRSNAP との連携**

**スペクトルと塑性率算定結果の表示**

【サンプルデータ】  
等価固有周期 T = 1.217 所要降伏震度 k = 0.359 応答塑性率  $\mu = 4.17$

縦軸: 応答塑性率  
横軸: 等価固有周期 (秒)

### 【動作環境】

- ① O S : Windows7®、Windows8®、Windows® 10(タブレットモードを除く)
- ② C P U : 1 ギガヘルツ (GHz) 以上のプロセッサ(2.0GHz 以上を推奨します)
- ③ メモリ : 1 ギガバイト (GB) 以上 (2.0GB 以上を推奨します)
- ④ プリンター : OS の動作環境に対応した機種
- ⑤ その他 : インターネットへ接続できる事(ライセンス認証用)

●開発・発行：(株)ジェイアール総研エンジニアリング(JRSE)

連絡先：(株)ジェイアール総研エンジニアリング ソフト販売窓口

〒185-0034 東京都国分寺市光町 2-8-38

TEL 042-575-3821 E-mail [support\\_sale@jrseg.co.jp](mailto:support_sale@jrseg.co.jp) URL <http://www.jrseg.co.jp/>